

【表紙】

【提出書類】	有価証券届出書の訂正届出書
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成24年5月14日
【発行者名】	BNPパリバ インベストメント・パートナーズ株式会社
【代表者の役職氏名】	代表取締役 ロバート・モレース
【本店の所在の場所】	東京都千代田区丸の内一丁目9番1号 グラントウキョウ ノースタワー
【事務連絡者氏名】	諏訪部 広
【電話番号】	03-6377-2842
【届出の対象とした募集（売出） 内国投資信託受益証券に係る ファンドの名称】	九州特化型日本株式ファンド
【届出の対象とした募集（売出） 内国投資信託受益証券の金額】	継続申込期間（平成23年10月1日から平成24年8月13日まで） 500億円を上限とします。
【縦覧に供する場所】	該当事項はありません。

【有価証券届出書の訂正届出書の提出理由】

半期報告書の提出に伴い、平成23年9月30日付をもって提出した有価証券届出書（以下「原届出書」といいます。）の関係情報を新たな情報に更新するため、また、原届出書の一部に訂正すべき事項がありますので、本訂正届出書を提出するものです。

【訂正の内容】

下線部__は訂正部分を示します。

第一部【証券情報】

（9）【払込期日】

<訂正前>

お申込金額は、販売会社が指定する期日までに、指定の方法でお支払いください。

発行価額の総額は、追加信託が行われる日に、販売会社によりBNPパリバ インベストメント・パートナーズ株式会社（以下「委託会社」といいます。）の指定する口座を經由して住友信託銀行株式会社（以下「受託会社」といいます。）の指定するファンド口座（受託会社が再信託している場合は、当該再信託受託会社の指定するファンド口座）に払込まれます。

<訂正後>

お申込金額は、販売会社が指定する期日までに、指定の方法でお支払いください。

発行価額の総額は、追加信託が行われる日に、販売会社によりBNPパリバ インベストメント・パートナーズ株式会社（以下「委託会社」といいます。）の指定する口座を經由して三井住友信託銀行株式会社（以下「受託会社」といいます。）の指定するファンド口座（受託会社が再信託している場合は、当該再信託受託会社の指定するファンド口座）に払込まれます。

第二部【ファンド情報】

第1【ファンドの状況】

1【ファンドの性格】

（1）【ファンドの目的及び基本的性格】

ファンドの特色

原届出書の「第二部 ファンド情報 第1 ファンドの状況 1 ファンドの性格（1）ファンドの性格 ファンドの特色」につきまして、末尾に以下の内容を追加し更新します。

<訂正・更新後>

（略）

BNPパリバグループについて



- BNPパリバは、フランスの大手金融グループです。世界80以上の国と地域で金融サービスを提供しており、平成23年12月末現在の総資産は、1兆9,653億ユーロ(約195兆8,618億円[※])です。
- BNPパリバ インベストメント・パートナーズは、BNPパリバグループの資産運用部門として、世界の金融機関や個人投資家向けに様々な資産運用サービスを提供しています。平成23年12月末現在の総運用資産残高は4,920億ユーロ(約49兆327億円[※])です。
- BNPパリバ インベストメント・パートナーズ株式会社は、BNPパリバグループの日本における資産運用拠点として平成10年に設立されました。

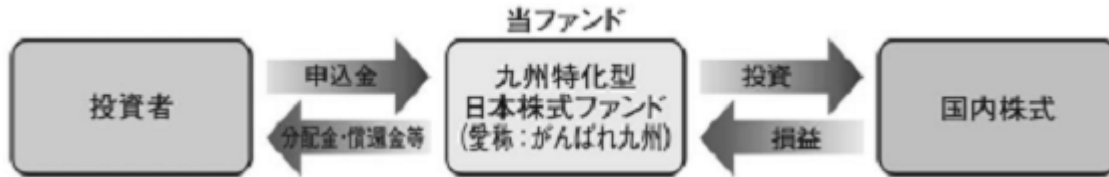
※平成23年12月末現在の対円為替レートで換算

（3）【ファンドの仕組み】

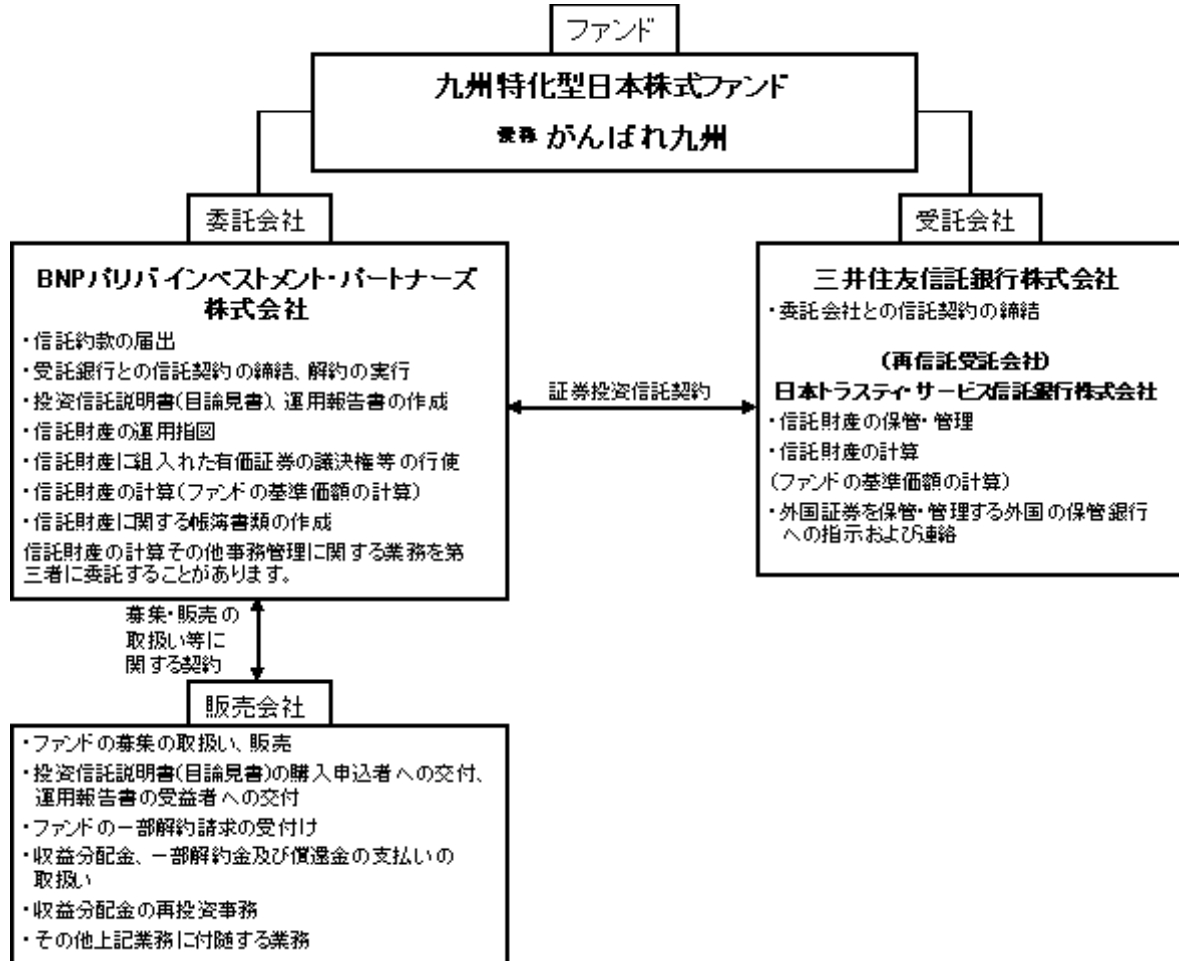
原届出書の「第二部 ファンド情報 第1 ファンドの状況 1 ファンドの性格（3）ファンドの仕組み」につきまして、以下の内容に訂正・更新します。

<訂正・更新後>

a. ファンドの仕組み



b. ファンドの関係法人および委託会社が関係法人と締結している契約等の概要



ファンドの関係法人

名称	関係業務の内容
《委託会社》 BNPパリバ インベストメント・パートナーズ株式会社	当ファンドの委託者として、信託財産の運用指図、投資信託説明書(目論見書)及び運用報告書の作成等を行います。
《受託会社》 三井住友信託銀行株式会社	当ファンドの受託者として、信託財産の保管・管理業務等を行います。なお、信託事務の一部を委託することができます。
《再信託受託会社》 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社	受託会社から資産管理業務の委託を受けます。
《販売会社》	当ファンドの販売会社として、募集・販売の取扱い、一部解約請求の受付け、収益分配金、一部解約金及び償還金の支払い、収益分配金の再投資事務等を行います。

委託会社が関係法人と締結している契約等の概要

*証券投資信託契約

委託会社と受託会社の間で結ばれる契約で、運用に関する事項、委託会社及び受託会社としての業務に関する事項、受益者に関する事項等が定められています。

*募集・販売の取扱い等に関する契約

委託会社と販売会社との間で結ばれる契約で、販売会社の募集・販売の取扱い、解約の取扱い、収益分配金・償還金の支払いの取扱いに係る事務の内容等が定められています。

c. 委託会社の概況（平成24年3月末現在）

資本金 4億5,000万円

沿革

平成10年11月9日 会社設立

平成10年11月30日 証券投資信託委託業の免許取得

平成11年2月26日 証券投資顧問業の登録

平成12年6月20日 投資一任契約業務の認可取得

平成12年8月1日 パリバ投資顧問株式会社の営業の全部を譲り受ける

平成12年8月1日 ビー・エヌ・ピー・パリバ アセットマネジメント株式会社に社名変更

平成22年7月1日 フォルティス・アセットマネジメント株式会社と合併

BNPパリバ インベストメント・パートナーズ株式会社に社名変更

大株主の状況

株主名	住所	所有株数	所有比率
BNP Paribas Investment Partners S.A. ビー・エヌ・ピー・パリバ インベストメント・パートナーズ エス・エイ	フランス共和国、パリ75009、 ブルヴァーオスマン1	9,000株	100.0%

2【投資方針】

(3)【運用体制】

原届出書の「第二部 ファンド情報 第1 ファンドの状況 2 投資方針 (3) 運用体制」につきまして、以下の内容に訂正・更新します。

<訂正・更新後>

九州銘柄および九州関連銘柄の中から、運用部門が当ファンドのために開発された独自の定量モデルを用いてスクリーニングを行い、一定の基準でポートフォリオを構築します。また、定期的にはリバランスを行います。

ファンドマネジャーは、銘柄をチェックすると共に、定量モデルに基づき投資方針に沿ったポートフォリオを構築・維持します。そのため、日々ファンドの管理とモニターを行います。

トレーダーは専任の担当者が配置され、ファンドマネジャーからの売買指示を受けて売買の執行を行います。

委託会社の運用体制

・運用部門（7名）

市場動向、ポートフォリオ、運用ガイドライン等のモニタリングを行います。

・トレーディング部門（2名）

運用部門からの指示に基づき、発注業務を行います。

・パフォーマンス評価及び投資運用委員会（7名）

原則として月1回及び随時に開催し、運用パフォーマンスの評価、投資運用や運用ガイドライン遵守等の状況についての報告が行われます。また必要に応じて投資運用に関する対応を図ります。

・内部管理委員会（8名）

原則として月1回開催し、法令諸規則や社内規則の遵守状況に関連する事項のレビュー等を行い、

業務手続、コンプライアンス・システム及び内部管理の実施に資する対応を図ります。

- ・法務・コンプライアンス及びリスク管理部門（6名）

取引内容の法令遵守状況の確認を行い、必要に応じて指導、勧告を行うとともに内部管理委員会等に報告を行います。また、法令遵守状況の監視及び定期的な確認、法令及びコンプライアンスに関する情報の役職員への提供、研修の実施等を行います。

委託会社によるファンドの関係法人（販売会社を除く）に対する管理体制

受託会社または受託会社の再信託先に対しては、日々の純資産照合等を行っています。また、受託会社等につき、内部統制の整備および運用状況についての報告書を受け取っております。

運用体制等は平成24年3月末現在のものであり、今後変更となる場合があります。

BNPパリバグループの概要（平成24年3月末現在）

BNPパリバグループ

BNPパリバグループは欧州を本拠とする世界有数の金融グループです。世界80ヶ国に約200,000人の従業員を擁し、コーポレートバンキング・投資銀行業務、資産運用業務、ならびにリテール銀行業務という3つの主要事業分野それぞれにおいてキープレーヤーとしての地位を占めています。欧州ではフランス、イタリア、ベルギー、ルクセンブルクがリテール銀行業務の母国市場と位置づけられます。地中海沿岸全域及び東欧において総合的なリテール銀行業務を展開するとともに、米国西海岸にも広範な拠点網を有します。欧州でトップグループの地位を確立しているコーポレートバンキング・投資銀行業務ならびに資産運用業務は、米国、アジアにおいても着実に拡大を続けています。

日本国内においても約800名のスペシャリストが、証券・投資銀行業務、法人向け銀行業務、資産運用業務、生命保険・損害保険業務等、各法人において多岐にわたる業務を展開しています。

BNPパリバ インベストメント・パートナーズ

BNPパリバ インベストメント・パートナーズはBNPパリバグループの資産運用部門として、世界の金融機関や個人投資家向けに様々な資産運用サービスを提供しています。

800人を超える各資産クラス向けのサービスに精通した運用担当者が世界中の60の運用拠点によるネットワークを用いて、お客様とのパートナーシップを第一のコンセプトとした専門性の高いサービスを展開しています。

（4）【分配方針】

<訂正前>

（略）

留保益の運用については、特に制限を設けず、委託会社の判断に基づき、元本部分と同一の運用を行います。

なお、収益分配金は税引き後自動的に無手数料で再投資されますが、再投資により増加した受益権は、振替口座簿に記載または記録されます。

<訂正後>

（略）

留保益の運用については、特に制限を設けず、委託会社の判断に基づき、元本部分と同一の運用を行います。

3【投資リスク】

<訂正前>

（略）

a. ファンドのリスク特性

（略）

したがって、当ファンドは、金融機関の預金と異なり元本が保証されているものではありません。また、当ファンドは、預金保険機構または保険契約者保護機構の保護の対象ではなく、信託財産に生じた利益および損失は、全て受益者に帰属します。

(略)

b. リスクの管理体制

(略)

業務部門は日々のトレード、約定、決済など、事務面での監視を実施します。一方、法務・コンプライアンス及びリスク管理部門においては法令・諸規則、および運用ガイドライン、信託約款などの遵守についてのモニタリングを実施します。更に、パフォーマンス評価及び投資運用委員会、内部管理委員会により定期的チェックを行い、投資リスクの管理体制を強化しています。

(略)

内部管理委員会

構成メンバー	法務・コンプライアンス部門の代表者、CEO、インベストメント・リスク管理部門の代表者、業務部門の代表者、運用部門の代表者、監査役
(略)	

上記の内容は平成23年8月末現在であり、委託会社の組織変更等により今後変更される場合があります。

<訂正後>

(略)

a. ファンドのリスク特性

(略)

したがって、投資者の皆さまの投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割込むことがあります。また、ファンドの運用による損益は全て投資者の皆さまに帰属します。なお、投資信託は預貯金と異なります。

(略)

b. リスクの管理体制

(略)

運用部門におけるリスク管理に加えて、インベストメント・リスク管理部門が、ポートフォリオの市場リスク、信用リスクなどのインベストメント・リスクを管理します。インベストメント・リスク管理部門は、運用部門からは完全に独立した組織として、グループ内において、コンプライアンス、パーマネントコントロール及びリスク統括部門に属しております。インベストメント・リスク管理部門は、市場リスク、流動性リスク、信用リスク、カウンターパーティーリスク、モデルリスクなどのインベストメント・リスクの管理と、インベストメント・コンプライアンスに関する業務をカバーしています。業務部門は日々のトレード、約定、決済など、事務面での監視を実施します。また、法務・コンプライアンス部門においては法令・諸規則、信託約款などの遵守についてのモニタリングを実施します。更に、パフォーマンス評価及び投資運用委員会、内部管理委員会により定期的にチェックを行い、投資リスクの管理体制を強化しています。

(略)

内部管理委員会

構成メンバー	法務・コンプライアンス部門の代表者、CEO、COO、インベストメント・リスク管理部門の代表者、運用部門の代表者、業務部門の代表者、内部監査部門の代表者、監査役
(略)	

上記の内容は平成24年3月末現在であり、委託会社の組織変更等により今後変更される場合があります。

4【手数料等及び税金】

(5)【課税上の取扱い】

原届出書の「第二部 ファンド情報 第1 ファンドの状況 4 手数料等及び税金 (5) 課税上の取扱い」につきまして、以下の内容に訂正・更新します。

<訂正・更新後>

課税上は株式投資信託として取扱われます。

日本の居住者（法人を含みます。）である受益者に対する課税については、以下のような取扱いとなります（平成24年3月末現在）。詳しくは、販売会社にお問合わせください。

なお、今後、税法が改正された場合は、以下の内容が変更になることがあります。

個人の受益者に対する課税**収益分配金について**

収益分配金（普通分配金）に対する源泉徴収税率は原則、20%（所得税15%、地方税5%）となります。

ただし、平成24年12月31日までは、租税特別措置法に基づく源泉徴収税率の特例措置として、軽減税率10%（所得税7%、地方税3%）が源泉徴収されます。また、平成25年1月1日から平成49年12月31日の25年間は、復興財源法に基づき所得税額に2.1%の税率を乗じた復興特別所得税が併せて徴収されます。各期間の税率は、以下の通りです。

平成24年12月31日まで	平成25年1月1日から 平成25年12月31日まで	平成26年1月1日から 平成49年12月31日まで
10% （所得税7%、地方税3%）	10.147% （所得税7.147%、地方税3%）	20.315% （所得税15.315%、地方税5%）

* 源泉徴収により申告不要制度が適用されますが、確定申告を行い総合課税または申告分離課税を選択することもできます。申告分離課税を選択した場合には、上場株式等の譲渡損との通算を行うことができます。また、通算してもなお控除しきれない損失の金額は翌年以降3年間にわたり、確定申告により株式等に係る譲渡所得に係る譲渡所得等の金額及び上場株式等に係る配当所得の金額から繰越控除することができます。なお、総合課税、申告分離課税の選択については、その選択により所得金額及び税額が不利になる可能性もありますので、詳細につきましては税務専門家に確認して頂くことをお勧め致します。

* 源泉徴収選択口座（特定口座）をご利用の場合、その口座内において配当等の額から上場株式等の譲渡損失の金額を控除した金額に対して所得税、地方税の額が計算されます（確定申告不要）。

一部解約金、償還金について

解約価額または償還価額から取得に要した金額（申込手数料および申込手数料に係る消費税等相当額を含みます。）を控除した差益（譲渡益）に、20%（所得税15%、地方税5%）の申告分離課税が適用されます。

ただし、平成24年12月31日までは、租税特別措置法に基づく譲渡所得に対する税率の特例措置として、軽減税率10%（所得税7%、地方税3%）の申告分離課税が適用されます。また、平成25年1月1日から平成49年12月31日の25年間は、復興財源法に基づき所得税額に2.1%の税率を乗じた復興特別所得税が併せて徴収されます。各期間の税率は、以下の通りです。

平成24年12月31日まで	平成25年1月1日から 平成25年12月31日まで	平成26年1月1日から 平成49年12月31日まで
10% （所得税7%、地方税3%）	10.147% （所得税7.147%、地方税3%）	20.315% （所得税15.315%、地方税5%）

* 一部解約金および償還金については、上場株式等の譲渡所得等の収入金額として取り扱われ、上場株式等の譲渡所得等の損失が生じた場合には、上場株式等に係る配当所得（申告分離課税を選択した収益分配金、配当金に限ります。）と損益通算を行うことができます。

* 源泉徴収選択口座（特定口座）をご利用の場合、その口座内において配当等の額から上場株式等の譲渡損失の金額を控除した金額に対して所得税、地方税の額が計算されます（確定申告不要）。

配当控除の適用が可能です。

法人の受益者に対する課税**収益分配金について**

収益分配金（普通分配金）に対する源泉徴収税率は原則、15%（所得税）となります。

ただし、平成24年12月31日までは、租税特別措置法に基づく源泉徴収税率の特例措置として、軽減税率7%（所得税）が源泉徴収されます。また、平成25年1月1日から平成49年12月31日の25年間は、復興

財源法に基づき所得税額に2.1%の税率を乗じた復興特別所得税が併せて徴収されます。各期間の税率は、以下の通りです。

平成24年12月31日まで	平成25年1月1日から 平成25年12月31日まで	平成26年1月1日から 平成49年12月31日まで
7%（所得税）	7.147%（所得税）	15.315%（所得税）

一部解約金、償還金について

解約価額または償還価額の個別元本超過額に対する源泉徴収税率は原則、15%（所得税）となります。

ただし、平成24年12月31日までは、租税特別措置法に基づく譲渡所得に対する税率の特例措置として、軽減税率7%（所得税）が源泉徴収されます。また、平成25年1月1日から平成49年12月31日の25年間は、復興財源法に基づき所得税額に2.1%の税率を乗じた復興特別所得税が併せて徴収されます。各期間の税率は、以下の通りです。

平成24年12月31日まで	平成25年1月1日から 平成25年12月31日まで	平成26年1月1日から 平成49年12月31日まで
7%（所得税）	7.147%（所得税）	15.315%（所得税）

源泉徴収された所得税は、所有期間に応じて法人税額から控除される場合があります。

受取配当等益金不算入制度の適用が可能です。

< 個別元本について >

追加型株式投資信託について、受益者毎の信託時の受益権の価額等（申込手数料および当該申込手数料にかかる消費税等相当額は含まれません。）が当該受益者の元本（個別元本）にあたりません。

受益者が同一ファンドの受益権を複数回取得した場合、個別元本は、当該受益者が追加信託を行うつど当該受益者の受益権口数で加重平均することにより算出されます。

ただし、個別元本は、同一ファンドを複数の販売会社で取得する場合などにより算出方法が異なる場合がありますので、販売会社にお問合わせください。

< 収益分配金の課税について >

追加型株式投資信託における収益分配金には、課税扱いになる「普通分配金」と非課税扱いになる「元本払戻金（特別分配金）」（受益者毎の元本の一部払戻しに相当する部分）があります。

受益者が収益分配金を受け取る際、イ．当該収益分配金落ち後の基準価額が当該受益者の個別元本と同額の場合または当該受益者の個別元本を上回っている場合には、当該収益分配金の全額が普通分配金となり、ロ．当該収益分配金落ち後の基準価額が当該受益者の個別元本を下回っている場合には、その下回る部分の額が元本払戻金（特別分配金）となり、当該収益分配金から当該元本払戻金（特別分配金）を控除した額が普通分配金となります。

受益者が元本払戻金（特別分配金）を受け取った場合、収益分配金発生時にその個別元本から当該元本払戻金（特別分配金）を控除した額が、その後の当該受益者の個別元本となります。

買取につきましては、販売会社にお問合わせください。

詳細につきましては、税務専門家に確認していただくことをお勧めいたします。

5【運用状況】

原届出書の「第二部 ファンド情報 第1 ファンドの状況 5 運用状況」につきまして、以下の内容に訂正・更新します。

< 訂正・更新後 >

(1) 【投資状況】（平成24年3月末現在）

資産の種類	国名	時価合計（円）	投資比率（％）
株式	日本	1,203,219,500	96.52
現金・預金・その他の資産（負債控除後）		43,957,118	3.48
合計（純資産総額）		1,246,576,618	100.00

*投資比率とは、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価比率をいいます。

(2) 【投資資産】（平成24年3月末現在）

【投資有価証券の主要銘柄】

(主要銘柄の明細)

順位	国/地域	銘柄名	種類	業種	数量	簿価単価 （円）	簿価金額 （円）	評価単価 （円）	評価金額 （円）	投資比率 （％）
1	日本	久光製薬	株式	医薬品	23,000	3,260.00	91,280,000	3,325.00	109,900,000	8.82
2		安川電機	株式	電気機器	123,000	748.00	92,004,000	773.00	95,694,000	7.68
3		みくおかフィナンシャルグループ	株式	銀行業	232,000	310.00	78,120,000	367.00	92,484,000	7.42
4		三菱重工業	株式	機械	195,000	337.00	65,715,000	401.00	78,195,000	6.27
5		四日本シティ銀行	株式	銀行業	315,000	219.00	68,985,000	234.00	73,710,000	5.91
6		楽天	株式	サービス業	725	82,600.00	59,885,000	86,700.00	62,857,500	5.04
7		東電エレクトロニクス	株式	電気機器	13,000	3,730.00	48,490,000	4,735.00	61,555,000	4.94
8		コカ・コーラウエスト	株式	食料品	42,000	1,403.00	58,926,000	1,451.00	60,942,000	4.89
9		九州電力	株式	電気・ガス業	49,000	1,210.00	59,290,000	1,179.00	57,771,000	4.63
10		イトーヨーカ堂	株式	ガラス・土石製品	89,000	623.00	55,447,000	623.00	55,447,000	4.45
11		四日本鉄道	株式	陸運業	140,000	345.00	48,300,000	379.00	54,460,000	4.37
12		新日本製鐵	株式	鉄鋼	210,000	235.00	49,350,000	227.00	47,670,000	3.82
13		トヨタ自動車	株式	輸送用機器	13,000	2,662.15	34,608,083	3,370.00	45,410,000	3.72
14		コスモス薬品	株式	小売業	11,000	3,720.00	40,920,000	4,170.00	45,870,000	3.68
15		日産自動車	株式	輸送用機器	32,000	653.90	34,522,800	531.00	45,812,000	3.68
16		ブレナス	株式	小売業	23,000	1,323.00	37,044,000	1,497.00	41,916,000	3.36
17		四国瓦斯	株式	電気・ガス業	167,000	199.00	33,233,000	223.00	37,241,000	2.99
18		エヌ・ティ・ティ・ドコモ	株式	情報・通信業	220	142,007.39	31,241,625	137,400.00	30,228,000	2.42
19		山九	株式	陸運業	93,000	345.06	32,090,580	324.00	30,132,000	2.42
20		肥後銀行	株式	銀行業	55,000	462.50	25,437,500	490.00	26,930,000	2.16
21		住友金属工業	株式	鉄鋼	145,000	170.00	24,650,000	167.00	24,215,000	1.94
22		盛岡銀行	株式	銀行業	45,000	508.00	22,860,000	523.00	23,760,000	1.91

*投資比率とは、ファンドの純資産総額に対する当該銘柄の評価金額の比率をいいます。

(種類別及び業種別投資比率)

種類	業種	投資比率(%)
株式	食料品	4.89
株式	医薬品	8.82
株式	ガラス・土石製品	4.45
株式	鉄鋼	5.77
株式	機械	6.27
株式	電気機器	12.61
株式	輸送用機器	7.40
株式	電気・ガス業	7.62
株式	陸運業	6.79
株式	情報・通信業	2.42
株式	小売業	7.04
株式	銀行業	17.40
株式	サービス業	5.04
	合計	96.52

*投資比率とは、ファンドの純資産総額に対する当該種類及び業種の評価金額の比率をいいます。

【投資不動産物件】

該当事項はありません。

【その他投資資産の主要なもの】

該当事項はありません。

(3) 【運用実績】

【純資産の推移】

ファンドの各計算期間末日および平成24年3月末前1年以内における各月末の純資産の推移は以下のとおりです。

		純資産総額(円)		基準価額(円)	
		(分配落)	(分配付)	(分配落)	(分配付)
第1期	平成15年8月14日	1,656,154,286	1,656,154,286	10,039	10,039
第2期	平成16年8月16日	1,643,709,324	1,706,634,171	10,449	10,849
第3期	平成17年8月15日	2,118,861,992	2,191,535,233	11,662	12,062
第4期	平成18年8月14日	3,805,912,807	3,953,025,600	12,935	13,435
第5期	平成19年8月14日	5,203,186,408	5,322,421,657	13,091	13,391
第6期	平成20年8月14日	4,349,299,040	4,392,316,672	10,111	10,211
第7期	平成21年8月14日	3,476,503,695	3,476,503,695	8,805	8,805
第8期	平成22年8月16日	2,673,946,402	2,673,946,402	7,726	7,726
第9期	平成23年8月15日	1,453,983,933	1,453,983,933	7,508	7,508
第10期中	平成24年2月15日	1,209,335,542	-	7,730	-
	平成23年3月末日	1,833,798,006	-	8,265	-
	平成23年4月末日	1,723,696,368	-	8,055	-
	平成23年5月末日	1,616,584,198	-	7,831	-
	平成23年6月末日	1,596,739,316	-	8,048	-
	平成23年7月末日	1,551,964,505	-	7,837	-
	平成23年8月末日	1,449,708,993	-	7,485	-
	平成23年9月末日	1,445,795,138	-	7,752	-
	平成23年10月末日	1,351,266,397	-	7,406	-
	平成23年11月末日	1,276,302,313	-	7,204	-
	平成23年12月末日	1,191,003,798	-	7,329	-
	平成24年1月末日	1,203,709,747	-	7,415	-
	平成24年2月末日	1,198,868,690	-	7,979	-
	平成24年3月末日	1,246,576,618	-	8,321	-

*基準価額は1万口当たり

【分配の推移】

	計算期間	分配金(円)
第1期	自 平成14年8月15日 至 平成15年8月14日	0
第2期	自 平成15年8月15日 至 平成16年8月16日	400
第3期	自 平成16年8月17日 至 平成17年8月15日	400
第4期	自 平成17年8月16日 至 平成18年8月14日	500
第5期	自 平成18年8月15日 至 平成19年8月14日	300
第6期	自 平成19年8月15日 至 平成20年8月14日	100
第7期	自 平成20年8月15日 至 平成21年8月14日	0
第8期	自 平成21年8月15日 至 平成22年8月16日	0
第9期	自 平成22年8月17日 至 平成23年8月15日	0

*分配金は1万口当たり

【収益率の推移】

	計算期間	収益率 (%)
第1期	自 平成14年8月15日 至 平成15年8月14日	0.4
第2期	自 平成15年8月15日 至 平成16年8月16日	8.1
第3期	自 平成16年8月17日 至 平成17年8月15日	15.4
第4期	自 平成17年8月16日 至 平成18年8月14日	15.2
第5期	自 平成18年8月15日 至 平成19年8月14日	3.5
第6期	自 平成19年8月15日 至 平成20年8月14日	△22.0
第7期	自 平成20年8月15日 至 平成21年8月14日	△12.9
第8期	自 平成21年8月15日 至 平成22年8月16日	△12.3
第9期	自 平成22年8月17日 至 平成23年8月15日	△2.8
第10期中	自 平成23年8月16日 至 平成24年2月15日	3.0

*収益率は、計算期間末の基準価額（分配額の額）から当該計算期間の直前の計算期末の基準価額（分配額の額、以下「前期末基準価額」といいます。）を控除した額を前期末基準価額で除して得た数に100を乗じた数です。ただし、第1期については、前期末基準価額の代わりに、設定時の基準価額（10,000円）を用いております。

（４）【設定及び解約の実績】

当ファンドの各計算期間における設定および解約の実績は次の通りです。

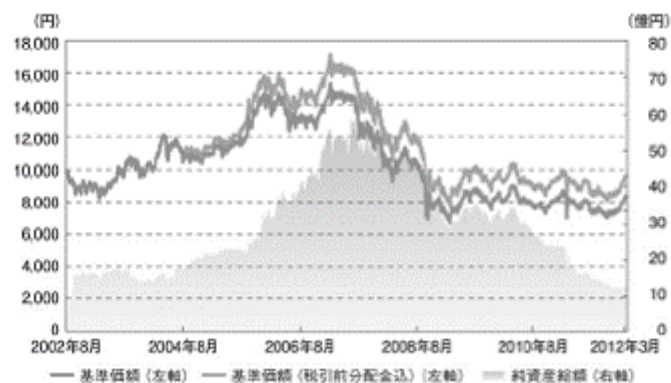
計算期間		設定総額（口）	解約総額（口）
第1期	自 平成14年8月15日 至 平成15年8月14日	1,947,309,182	297,618,567
第2期	自 平成15年8月15日 至 平成16年8月16日	537,813,738	614,383,165
第3期	自 平成16年8月17日 至 平成17年8月15日	686,886,939	443,177,082
第4期	自 平成17年8月16日 至 平成18年8月14日	1,610,041,446	484,616,614
第5期	自 平成18年8月15日 至 平成19年8月14日	2,201,167,218	1,168,914,783
第6期	自 平成19年8月15日 至 平成20年8月14日	396,673,205	69,418,220
第7期	自 平成20年8月15日 至 平成21年8月14日	50,979,616	404,193,062
第8期	自 平成21年8月15日 至 平成22年8月16日	4,514,064	492,300,747
第9期	自 平成22年8月17日 至 平成23年8月15日	5,653,586	1,529,815,617
第10期中	自 平成23年8月16日 至 平成24年2月15日	2,073,826	374,119,536

（注1）本邦以外における設定、解約はありません。

（注2）第1期計算期間の設定口数には、当初募集期間中の販売口数を含みます。

<参考情報> 運用実績（2012年3月30日現在）

■基準価額・純資産の推移



— 基準価額（左軸） — 基準価額（税引前分配金込）（左軸） ■■■ 純資産総額（右軸）
 ※「基準価額（税引前分配金込）」は、分配金（税引前）を再投資したものととして算出しております。
 ※基準価額は、信託報酬控除後です。

基準価額	8,321円
純資産総額	12.4億円

※基準価額は1万口当たり

■分配の推移

2007年8月	300 円
2008年8月	100 円
2009年8月	0 円
2010年8月	0 円
2011年8月	0 円
設定来累計	1,700 円

※1万口当たり（税引前）

■主要な資産の状況

<投資状況>

資産の種類	国名	純資産比率(%)
株式	日本	96.52
現金・預金・その他の資産(負債控除後)		3.48
合計		100.00

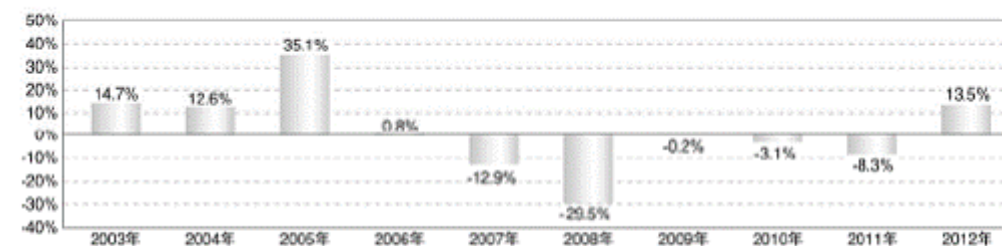
<組入上位10銘柄>

順位	種類	地域	銘柄名	業種	純資産比率(%)
1	株式	日本	久光製薬	医薬品	8.82
2			安川電機	電気機器	7.68
3			ふくおかフィナンシャルグループ	銀行業	7.42
4			三菱重工業	機械	6.27
5			西日本シティ銀行	銀行業	5.91
6			楽天	サービス業	5.04
7			東京エレクトロン	電気機器	4.94
8			コカ・コーラウエスト	食料品	4.89
9			九州電力	電気・ガス業	4.63
10			TOTO	ガラス・土石製品	4.45

※純資産比率は、ファンドの純資産総額に対する比率です。

※当該銘柄は当ファンドの説明のためのものであり、当社が取得申込みの勧誘を行うものではありません。

■年間収益率の推移



※年間収益率を暦年ベースで表示しております。2012年は年初から3月末までの収益率です。

※収益率は、分配金(税引前)を再投資したものととして算出しております。

※当ファンドにはベンチマークはありません。

※ファンドの運用実績はあくまで過去の実績であり、将来の運用成果をお約束するものではありません。

※運用実績は、別途月次等で随時開示しており、委託会社のホームページまたは販売会社でご確認いただけます。

第2【管理及び運営】

1【申込（販売）手続等】

<訂正前>

お申込みに際しては、販売会社所定の方法にてお申込みください。

また、お申込みに際しては、販売会社との間で「自動けいぞく投資約款」に従って、契約を締結していただきます。

<訂正後>

お申込みに際しては、販売会社所定の方法にてお申込みください。

3【資産管理等の概要】

(3)【信託期間】

<訂正前>

ファンドの信託の期間は信託契約締結日から平成24年8月14日までとします。

<訂正後>

ファンドの信託の期間は信託契約締結日から平成29年8月14日までとします。

4【受益者の権利等】

(2) 収益分配金に対する権利

<訂正前>

受益者は、収益分配金を受益権の持ち分に応じて受け取る権利を有します。

収益分配金は、自動けいぞく投資約款に基づき、自動的に再投資されますが、再投資により増加した受益権は、振替口座簿に記載または記録されます。

<訂正後>

当ファンドの収益分配金は、決算日において振替機関等の振替口座簿に記載または記録されている受益者（当該収益分配金にかかる決算日以前において一部解約が行われた受益権にかかる受益者を除きます。また、当該収益分配金にかかる決算日以前に設定された受益権で取得申込代金支払前のため販売会社の名義で記載または記録されている受益権については原則として取得申込者として）に、原則として決算日から起算して5営業日までに支払いを開始します。自動けいぞく投資契約に基づき収益分配金を再投資する場合には、収益分配金は税引き後無手数料で再投資されますが、再投資により増加した受益権は、振替口座簿に記載または記録されます。

受益者は、支払開始日から5年間その支払いを請求しないときは、その権利を失い、受託会社から交付を受けた金銭は、委託会社に帰属します。

収益分配金の支払いは、販売会社の営業所等にて行うものとします。

第3【ファンドの経理状況】

原届出書の「第二部 ファンド情報 第3 ファンドの経理状況」につきまして、「1 財務諸表」の後に、以下の中間財務諸表を追加・更新します。

<追加・更新後>

中間財務諸表

- (1) 当ファンドの中間財務諸表は、「中間財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和52年大蔵省令第38号）ならびに同規則第38条の3および第57条の2の規定により、「投資信託財産の計算に関する規則」（平成12年総理府令第133号）に基づいて作成しております。

なお、中間財務諸表に記載している金額は、円単位で表示しております。

- (2) 当ファンドは、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第10期中間計算期間（平成23年8月16日から平成24年2月15日まで）の中間財務諸表について、あらた監査法人による中間監査を受けております。

九州特化型日本株式ファンド

(1) 中間貸借対照表

(単位：円)

	第10期中間計算期間末 (平成24年2月15日現在)
資産の部	
流動資産	
コール・ローン	43,130,424
株式	1,172,570,000
未収配当金	1,143,750
未収利息	59
流動資産合計	1,216,844,233
資産合計	1,216,844,233
負債の部	
流動負債	
未払受託者報酬	551,349
未払委託者報酬	6,891,763
その他未払費用	65,579
流動負債合計	7,508,691
負債合計	7,508,691
純資産の部	
元本等	
元本	* 1, * 2 1,564,555,427
剰余金	
中間剰余金又は中間欠損金 ()	* 3 355,219,885
(分配準備積立金)	32,523,717
元本等合計	1,209,335,542
純資産合計	1,209,335,542
負債純資産合計	1,216,844,233

(2) 中間損益及び剰余金計算書

(単位：円)

	第10期中間計算期間 自 平成23年 8月16日 至 平成24年 2月15日
営業収益	
受取配当金	13,750,250
受取利息	12,512
有価証券売買等損益	23,498,820
その他収益	212,098
営業収益合計	37,473,680
営業費用	
受託者報酬	551,349
委託者報酬	6,891,763
その他費用	65,579
営業費用合計	7,508,691
営業利益又は営業損失（ ）	29,964,989
経常利益又は経常損失（ ）	29,964,989
中間純利益又は中間純損失（ ）	29,964,989
一部解約に伴う中間純利益金額の分配額又は一部解約に伴う中間純損失金額の分配額（ ）	4,739,447
期首剰余金又は期首欠損金（ ）	482,617,204
剰余金増加額又は欠損金減少額	93,237,566
中間一部解約に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額	93,237,566
中間追加信託に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額	-
剰余金減少額又は欠損金増加額	544,683
中間一部解約に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額	-
中間追加信託に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額	544,683
分配金	-
中間剰余金又は中間欠損金（ ）	355,219,885

(3) 中間注記表

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

有価証券の評価基準及び評価方法	株式 移動平均法に基づき、原則として時価で評価しております。時価評価にあたっては、金融商品取引所等における最終相場（最終相場のないものについては、それに準ずる価額）、又は金融商品取引業者等から提示される気配相場に基づいて評価しております。
-----------------	--

(追加情報)

当中間計算期間の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」（企業会計基準第24号 平成21年12月4日）及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日）を適用しております。

(中間貸借対照表に関する注記)

第10期中間計算期間末 (平成24年2月15日現在)	
*1	期首元本額 1,936,601,137円
	期中追加設定元本額 2,073,826円
	期中解約元本額 374,119,536円
*2	中間計算期間末における受益権の総数 1,564,555,427口
*3	元本の欠損 中間貸借対照表上の純資産額が元本総額を下 回っており、その差額は、355,219,885円であ ります。

(中間損益及び剰余金計算書に関する注記)

該当事項はありません。

(金融商品に関する注記)

金融商品の時価等に関する事項

	第10期中間計算期間末 (平成24年2月15日現在)
1. 中間貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額	中間貸借対照表計上額は中間計算期間末の時価で計上しているため、その差額はありません。
2. 時価の算定方法	(1) 有価証券 「(重要な会計方針に係る事項に関する注記)」に記載しております。 (2) デリバティブ取引 — (3) 上記以外の金融商品 コールローン等の金銭債権及び金銭債務については、短期間で決済されることから、当該帳簿価額を時価としております。

(有価証券に関する注記)

該当事項はありません。

(デリバティブ取引に関する注記)

該当事項はありません。

(一口当たり情報に関する注記)

第10期中間計算期間末 (平成24年2月15日現在)	
一口当たり純資産額	0.7730 円
(一万口当たり純資産額)	7,730 円)

2【ファンドの現況】

原届出書の「第二部 ファンド情報 第3 ファンドの経理状況 2 ファンドの現況」につきまして、以下の内容に訂正・更新します。

<訂正・更新後>

【純資産額計算書】平成24年3月30日

資産総額	1,249,421,835 円
負債総額	2,845,217 円
純資産総額(-)	1,246,576,618 円
発行済口数	1,498,123,586 口
1口当たり純資産額(/)	0.8321 円

第4【内国投資信託受益証券事務の概要】

(7) 質権口記載又は記録の受益権の取扱いについて

<訂正前>

振替機関等の振替口座簿の質権口に記載または記録されている受益権にかかる一部解約の実行の請求の受付け、一部解約金および償還金の支払い等については、約款の規定によるほか、民法その他の法令等にしたがって取扱われます。

<訂正後>

振替機関等の振替口座簿の質権口に記載または記録されている受益権にかかる収益分配金の支払い、一部解約の実行の請求の受付け、一部解約金および償還金の支払い等については、約款の規定によるほか、民法その他の法令等にしたがって取扱われます。

第三部【委託会社等の情報】

第1【委託会社等の概況】

1【委託会社等の概況】

<訂正前>

- a. 資本金の額（平成23年8月末現在）
（略）
- b. 委託会社等の機構（平成23年8月末現在）
（以下略）

<訂正後>

- a. 資本金の額（平成24年3月末現在）
（略）
- b. 委託会社等の機構（平成24年3月末現在）
（以下略）

2【事業の内容及び営業の概況】

原届出書の「第三部 委託会社等の情報 第1 委託会社等の概況 2 事業の内容及び営業の概況」につきまして、以下の内容に訂正・更新します。

<訂正・更新後>

委託会社は、投資信託及び投資法人に関する法律に定める投資信託委託会社として、証券投資信託の設定を行うとともに、金融商品取引法に定める金融商品取引業者としてその運用（投資運用業）を行っています。また金融商品取引法に定める投資助言・代理業務及び第二種金融商品取引業務を行っています。

委託会社が運用するファンドの本数及び純資産総額合計額は以下の通りです。（平成24年3月末現在）

種類	ファンド数（本）	純資産総額合計額(単位：億円)
追加型株式投資信託	62	1,940
追加型公社債投資信託	0	0
単位型株式投資信託	27	580
単位型公社債投資信託	26	536
合計	115	3,057

純資産総額合計額の金額については、億円未満の端数を切り捨てして記載しており、表中の個々の金額と合計欄の金額は一致しないことがあります。

3【委託会社等の経理状況】

原届出書の「第三部 委託会社等の情報 第1 委託会社等の概況 3 委託会社等の経理状況」につきまして、該当部分を以下内容に更新・訂正するとともに、末尾に「中間財務諸表」を追加します。

<更新・訂正後>

1. 当社の財務諸表は、第12期事業年度（平成21年4月1日から平成22年3月31日まで）については、改正前の「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号、以下「財務諸表等規則」という。）並びに同規則第2条に基づき、改正前の「金融商品取引業等に関する内閣府令」（平成19年内閣府令第52号）に基づいて作成しており、第13期事業年度（平成22年4月1日から平成23年3月31日まで）については改正後の財務諸表等規則並びに同規則第2条に基づき、改正後の「金融商品取引業等に関する内閣府令」（平成19年内閣府令第52号）に基づいて作成しております。また、当社の中間財務諸表は「中間財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和52年大蔵省令第38号、以下「中間財務諸表等規則」という。）並びに同規則第38条及び第57条に基づき、「金融商品取引業等に関する内閣府令」（平成19年内閣府令第52号）に基づいて作成しております。

財務諸表の金額については、千円未満を切り捨てて記載しております。

2. 当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第12期事業年度（平成21年4月1日から平成22年3月31日まで）及び第13期事業年度（平成22年4月1日から平成23年3月31日まで）の財務諸表について、あらた監査法人による監査を受けております。また、第14期中間会計期間（平成23年4月1日から平成23年9月30日まで）の中間財務諸表については、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、あらた監査法人による中間監査を受けております。

中間財務諸表

(1) 中間貸借対照表

期別		第14期中間会計期間末 (平成23年9月30日現在)	
資産の部			
科目	注記 番号	内訳	金額
流動資産			千円
預金			984,014
前払費用			31,700
未収委託者報酬			747,856
未収運用受託報酬			263,979
未収投資助言報酬			137,696
未収収益			716,566
未収入金			143,072
立替金			2,039
流動資産計			3,026,926
固定資産			
有形固定資産	* 1		
建物			143,238
器具備品			3,063
有形固定資産計			146,302
無形固定資産			
ソフトウェア			2,509
のれん			200,428
無形固定資産計			202,938
投資その他の資産			
長期差入保証金			232,505
その他			7,001
投資その他の資産計			239,506
固定資産計			588,747
資産合計			3,615,673

期別		第14期中間会計期間末 (平成23年9月30日現在)	
負債の部			
科目	注記 番号	内訳	金額
流動負債			千円
預り金			44,543
未払手数料			439,153
未払委託調査費			253,319
その他未払金			71,016
未払費用			776,465
未払法人税等			22,060
未払消費税等	* 2		7,879
賞与引当金			214,148
役員賞与引当金			48,403
流動負債計			1,876,989
固定負債			
退職給付引当金			359,439
役員退職慰労引当金			142,483
預り敷金保証金			223,121
資産除去債務			51,771
固定負債計			776,815
負債合計			2,653,805
純資産の部			
科目	注記 番号	内訳	金額
株主資本			
資本金			450,000
資本剰余金			
資本準備金		7,777	
その他資本剰余金		1,907,867	
資本剰余金合計			1,915,644
利益剰余金			
利益準備金		75,500	
その他利益剰余金			
繰越利益剰余金		1,479,276	
利益剰余金合計			1,403,776
株主資本合計			961,868
評価・換算差額等			
その他有価証券評価差額 金			0
評価・換算差額等合計			0
純資産合計			961,868
負債・純資産合計			3,615,673

(2) 中間損益計算書

期別	第14期中間会計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)		
科目	注記 番号	内訳	金額
営業収益			千円
委託者報酬			1,568,879
運用受託報酬			387,920
投資助言報酬			96,946
その他営業収益			623,344
営業収益計			2,677,090
営業費用			
支払手数料			823,751
広告宣伝費			6,132
調査研究費			35,379
委託調査費			310,221
委託計算費			108,693
営業雑経費			23,124
印刷費		20,290	
協会費		2,834	
営業費用計			1,307,302
一般管理費			
給料			600,586
役員報酬		39,416	
給料・手当		561,169	
業務委託費			390,721
交際費			452
旅費交通費			31,086
租税公課			13,003
不動産賃借料			131,826
賞与引当金繰入額			124,717
役員賞与引当金繰入額			43,041
退職金			22,090
退職給付費用			37,683
役員退職慰労引当金繰入額			1,450
固定資産減価償却費	* 1		5,884
のれん償却費			52,285
諸経費			160,829
一般管理費計			1,615,660
営業利益又は営業損失 ()			245,871
営業外収益			
受取利息			4
営業外収益計			4
営業外費用			
支払利息			162
為替差損			52,635
雑損失			5,060
営業外費用計			57,858
経常利益又は経常損失 ()			303,725
特別損失			
固定資産除却損			7,197
特別損失計			7,197
税引前中間純利益又は税引 前中間純損失 ()			310,923

法人税、住民税及び事業税		1,899
法人税等調整額		-
法人税等合計		1,899
中間純利益又は中間純損失 ()		312,823

(3) 中間株主資本等変動計算書

(単位：千円)

第14期中間会計期間 (自 平成23年4月 1日 至 平成23年9月30日)		
株主資本		
資本金	当期首残高	450,000
	当中間期変動額	-
	当中間期末残高	450,000
資本剰余金		
資本準備金	当期首残高	7,777
	当中間期変動額	-
	当中間期末残高	7,777
その他資本剰余金	当期首残高	1,907,867
	当中間期変動額	-
	当中間期末残高	1,907,867
資本剰余金合計	当期首残高	1,915,644
	当中間期変動額	-
	当中間期末残高	1,915,644
利益剰余金		
利益準備金	当期首残高	75,500
	当中間期変動額	-
	当中間期末残高	75,500
その他利益剰余金		
繰越利益剰余金	当期首残高	1,166,452
	当中間期変動額	
	中間純利益又は中間純損失 ()	312,823
	当中間期変動額合計	312,823
	当中間期末残高	1,479,276
利益剰余金合計	当期首残高	1,090,952
	当中間期変動額	312,823
	当中間期末残高	1,403,776
株主資本合計	当期首残高	1,274,691
	当中間期変動額	312,823
	当中間期末残高	961,868
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差 額金	当期首残高	0
	当中間期変動額	0
	当中間期末残高	0
純資産合計	当期首残高	1,274,691
	当中間期変動額	312,823
	当中間期末残高	961,868

重要な会計方針

第14期中間会計期間 自 平成23年4月 1日 至 平成23年9月30日	
1．有価証券の評価基準及び評価方法	<p>その他有価証券</p> <p>時価のあるもの 中間決算日の市場価格等に基づく時価法（時価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）を採用しております。</p> <p>時価のないもの 移動平均法による原価法を採用しております。</p>
2．固定資産の減価償却の方法	<p>(1) 有形固定資産 定額法により償却しております。</p> <p>(2) 無形固定資産 定額法により償却しております。 なお、ソフトウェア（自社利用）については、社内における見込み利用可能期間（5年）による定額法を採用しております。 また、のれんについては5年間の期間均等償却にしております。</p>
3．引当金の計上基準	<p>(1) 貸倒引当金 債権の貸倒による損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率等を、貸倒懸念債権等の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。</p> <p>(2) 賞与引当金 従業員への賞与支給に備えるため、支給見込み額のうち当中間会計期間に負担すべき額を計上しております。</p> <p>(3) 役員賞与引当金 役員への賞与支給に備えるため、支給見込み額のうち当中間会計期間に負担すべき額を計上しております。</p> <p>(4) 退職給付引当金 従業員への退職金の支払に備えて、当社退職金規定に基づく自己都合退職金の当中間会計期間末要支給額を計上しております。</p> <p>(5) 役員退職慰労引当金 役員への退職慰労金の支出に備えて、内規に基づく当中間会計期間末要支給額を計上しております。</p>
4．外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算基準	外貨建金銭債権債務は、中間会計期間末の直物為替相場により円換算し、換算差額は損益として処理しております。
5．その他中間財務諸表作成のための重要な事項	<p>消費税等の会計処理 消費税等の会計処理は、税抜方式によっております。</p>

（追加情報）

第14期中間会計期間 自 平成23年4月 1日 至 平成23年9月30日
当中間会計期間の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」（企業会計基準第24号 平成21年12月4日）及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日）を適用しております。

注記事項

（中間貸借対照表関係）

第14期中間会計期間末 （平成23年9月30日現在）
* 1 有形固定資産の減価償却累計額は次の通りです。 建物 5,207千円 器具備品 7,911千円
* 2 消費税等の取扱い 仮払消費税等及び仮受消費税等は相殺のうえ、流動負債の未払消費税等として表示しております。

（中間損益計算書関係）

第14期中間会計期間 自 平成23年4月 1日 至 平成23年9月30日
* 1 減価償却実施額 有形固定資産 5,343千円 無形固定資産 477千円

（中間株主資本等変動計算書関係）

第14期中間会計期間 自 平成23年4月 1日 至 平成23年9月30日				
1．発行済株式に関する事項				
株式の種類	当期首株式数 (株)	当中間会計期間 増加株式数(株)	当中間会計期間 減少株式数(株)	当中間会計期間 末株式数(株)
普通株式	9,000	-	-	9,000
2．配当に関する事項 該当事項はありません。				

（リース取引関係）

第14期中間会計期間 自 平成23年4月 1日 至 平成23年9月30日	
1．ファイナンス・リース取引は重要性が低いため、注記を省略しております。	
2．オペレーティング・リース取引（借主側）は次の通りであります。	
オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものにかかる未経過リース料	
1年内	201,667千円
1年超	201,667千円
合 計	403,335千円

（金融商品関係）

第14期中間会計期間末
（平成23年9月30日現在）

金融商品の時価等に関する事項

平成23年9月30日における貸借対照表計上額、時価およびこれらの差額については、次のとおりであります。
（単位：千円）

科 目	貸借対照表計上額	時 価	差 額
預 金	984,014	984,014	-
未収委託者報酬	747,856	747,856	-
未収運用受託報酬	263,979	263,979	-
未収投資助言報酬	137,696	137,696	-
未収収益	716,566	716,566	-
未収入金	143,072	143,072	-
長期差入保証金	232,505	229,961	2,544
資産計	3,225,691	3,223,147	2,544
未払手数料	439,153	439,153	-
未払委託調査費	253,319	253,319	-
その他未払金	71,016	71,016	-
未払費用	776,465	776,465	-
預り敷金保証金	223,121	220,577	2,544
負債計	1,763,075	1,760,531	2,544

（注1）金融商品の時価の算定方法および有価証券に関する事項

（1）預金

預金はすべて短期であり、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

（2）未収委託者報酬、未収運用受託報酬、未収投資助言報酬、未収収益

これらの営業債権はすべて短期であり、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

（3）未収入金

これらの債権はすべて短期であり、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

（4）長期差入保証金、預り敷金保証金

長期差入保証金及び預り敷金保証金の時価は、その将来キャッシュフローを適切な利率で割り引いた現在価値により算定しています。

（5）未払手数料、未払委託調査費

これらの営業債務はすべて短期であり、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

（6）その他未払金、未払費用

これらの債務はすべて短期であり、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

（注2）金銭債権の償還予定額

	1年以内	1年超 5年以内	5年超 10年以内	10年超
預 金	984,014	-	-	-
未収委託者報酬	747,856	-	-	-
未収運用受託報酬	263,979	-	-	-
未収投資助言報酬	137,696	-	-	-
未収収益	716,566	-	-	-
未収入金	143,072	-	-	-
長期差入保証金	-	232,505	-	-

（有価証券関係）

第14期中間会計期間末
（平成23年9月30日現在）

重要性が低いため記載を省略しております。

（デリバティブ取引関係）

第14期中間会計期間末
（平成23年9月30日現在）

該当事項はありません。

（資産除去債務関係）

第14期中間会計期間 自 平成23年4月 1日 至 平成23年9月30日	
資産除去債務のうち貸借対照表に計上しているもの 当中間会計期間における当該資産除去債務の総額の増減	
期首残高	- 千円
有形固定資産の取得に伴う増加額	51,707千円
時の経過による調整額	63千円
当中間会計期間末残高	51,771千円

（セグメント情報等）

第14期中間会計期間 自 平成23年4月 1日 至 平成23年9月30日				
（セグメント情報） 当社は、投信投資顧問業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。				
（関連情報）				
1．製品及びサービスごとの情報				
（単位：千円）				
	投資信託業	投資顧問業	その他	合計
外部顧客への 営業収益	1,568,879	484,866	623,344	2,677,090
2．地域ごとの情報				
(1) 営業収益				
（単位：千円）				
日本	ルクセンブルグ	オランダ	その他	合計
1,954,223	318,856	225,396	178,615	2,677,090
（注）投資信託業の営業収益に関しては販売拠点、投資顧問業とその他の営業収益については契約先所在地を基に記載しております。				
(2) 有形固定資産				
本邦に所在している有形固定資産の合計が中間貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、地域ごとの固定資産の記載を省略しております。				
3．主要な顧客ごとの情報				
（単位：千円）				
顧客の名称	営業収益	関連するセグメント名		
BNPパリバ・ブラジル・ファンド（株式型）	390,517	なし		
BNPパリバ・インベストメント・パートナーズ・ルクセンブルグ	318,856	なし		
（報告セグメントごとののれんの償却額および未償却残高に関する情報） 当社は、投信投資顧問業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。				

（1株当たり情報）

第14期中間会計期間	
自 平成23年4月 1日	
至 平成23年9月30日	
1株当たり純資産額	106,874円
1株当たり中間純損失	34,758円
1株当たり中間純損失の算定上の基礎	
中間損益計算書上の中間純損失	312,823千円
普通株式に係る中間純損失	312,823千円
普通株主に帰属しない金額	-
期中平均株式数	普通株式 9,000
なお、潜在株式調整後1株当たり中間純損失金額については、希薄化効果を有している潜在株式を発行していないため記載しておりません。	

第2【その他の関係法人の概況】

1【名称、資本金の額及び事業の内容】

<訂正前>

(1) 受託会社

名 称：住友信託銀行株式会社

資本金の額：342,037百万円（平成23年3月末現在）

事業の内容：銀行法に基づき銀行業を営むとともに、金融機関の信託業務の兼営に関する法律に基づき信託業務を営んでいます。

<再信託受託会社の概要>

- ・名 称：日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社
- ・資本金の額：51,000百万円（平成23年3月末現在）
- ・業務の概要：銀行法に基づき銀行業を営むとともに、金融機関の信託業務の兼営に関する法律に基づき信託業務を営んでいます。

(2) 販売会社

名 称	資本金の額 (平成23年3月末現在)	事業の内容
株式会社西日本シティ銀行	85,745百万円	銀行法に基づき銀行業を営みます。
楽天銀行株式会社	25,954百万円	
楽天証券株式会社	7,495百万円	金融商品取引法に定める第一種金融商品取引業を営んでいます。
西日本シティTT証券株式会社	1,575百万円	

<訂正後>

(1) 受託会社

名 称：三井住友信託銀行株式会社

資本金の額：342,037百万円（平成24年4月1日現在）

事業の内容：銀行法に基づき銀行業を営むとともに、金融機関の信託業務の兼営に関する法律に基づき信託業務を営んでいます。

<再信託受託会社の概要>

- ・名 称：日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社
- ・資本金の額：51,000百万円（平成23年9月末現在）
- ・業務の概要：銀行法に基づき銀行業を営むとともに、金融機関の信託業務の兼営に関する法律に基づき信託業務を営んでいます。

(2) 販売会社

名 称	資本金の額 (平成23年9月末現在)	事業の内容
株式会社西日本シティ銀行	85,745百万円	銀行法に基づき銀行業を営みます。
楽天銀行株式会社	25,954百万円	
楽天証券株式会社	7,495百万円	金融商品取引法に定める第一種金融商品取引業を営んでいます。
西日本シティTT証券株式会社	1,575百万円	

独立監査人の中間監査報告書

平成24年4月4日

BNPパリバ インベストメント・パートナーズ株式会社
取締役会 御中

あらた監査法人

指定社員 公認会計士 男澤 顕
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられている九州特化型日本株式ファンドの平成23年8月16日から平成24年2月15日までの中間計算期間の中間財務諸表、すなわち、中間貸借対照表、中間損益及び剰余金計算書並びに中間注記表について中間監査を行った。

中間財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して中間財務諸表を作成し有用な情報を表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない中間財務諸表を作成し有用な情報を表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した中間監査に基づいて、独立の立場から中間財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間監査の基準に準拠して中間監査を行った。中間監査の基準は、当監査法人に中間財務諸表には全体として中間財務諸表の有用な情報の表示に関して投資者の判断を損なうような重要な虚偽表示がないかどうかの合理的な保証を得るために、中間監査に係る監査計画を策定し、これに基づき中間監査を実施することを求めている。

中間監査においては、中間財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するために年度監査と比べて監査手続の一部を省略した中間監査手続が実施される。中間監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による中間財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて、分析的手続等を中心とした監査手続に必要に応じて追加の監査手続が選択及び適用される。中間監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な中間監査手続を立案するために、中間財務諸表の作成と有用な情報の表示に関連する内部統制を検討する。また、中間監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め中間財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、中間監査の意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

中間監査意見

当監査法人は、上記の中間財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して、九州特化型日本株式ファンドの平成24年2月15日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する中間計算期間（平成23年8月16日から平成24年2月15日まで）の損益の状況に関する有用な情報を表示しているものと認める。

利害関係

BNPパリバ インベストメント・パートナーズ株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

() 1. 上記は、当社が、中間監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

2. 中間財務諸表の範囲にはX B R L データ自体は含まれていません。

[委託会社の監査報告書（当期）へ](#)

独立監査人の監査報告書

平成23年 6月24日

BNPパリバ インベストメント・パートナーズ株式会社

取締役会 御中

あらた監査法人

指定社員
業務執行社員 公認会計士 男澤 顕

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「委託会社等の経理状況」に掲げられているBNPパリバ インベストメント・パートナーズ株式会社の平成22年4月1日から平成23年3月31日までの第13期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書及び株主資本等変動計算書について監査を行った。この財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。監査は、試査を基礎として行われ、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、BNPパリバ インベストメント・パートナーズ株式会社の平成23年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

() 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

[ファンドの監査報告書\(当期中間\)へ](#)

独立監査人の中間監査報告書

平成23年12月21日

BNPパリバ インベストメント・パートナーズ株式会社
取締役会 御中

あらた監査法人

指定社員 公認会計士 男 澤 顕
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「委託会社等の経理状況」に掲げられているBNPパリバ インベストメント・パートナーズ株式会社の平成23年4月1日から平成24年3月31日までの第14期事業年度の中間会計期間（平成23年4月1日から平成23年9月30日まで）に係る中間財務諸表、すなわち、中間貸借対照表、中間損益計算書、中間株主資本等変動計算書、重要な会計方針及びその他の注記について中間監査を行った。

中間財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して中間財務諸表を作成し有用な情報を表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない中間財務諸表を作成し有用な情報を表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した中間監査に基づいて、独立の立場から中間財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間監査の基準に準拠して中間監査を行った。中間監査の基準は、当監査法人に中間財務諸表には全体として中間財務諸表の有用な情報の表示に関して投資者の判断を損なうような重要な虚偽表示がないかどうかの合理的な保証を得るために、中間監査に係る監査計画を策定し、これに基づき中間監査を実施することを求めている。

中間監査においては、中間財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するために年度監査と比べて監査手続の一部を省略した中間監査手続が実施される。中間監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による中間財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて、分析的手続等を中心とした監査手続に必要に応じて追加の監査手続が選択及び適用される。中間監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な中間監査手続を立案するために、中間財務諸表の作成と有用な情報の表示に関連する内部統制を検討する。また、中間監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め中間財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、中間監査の意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

中間監査意見

当監査法人は、上記の中間財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して、BNPパリバ インベストメント・パートナーズ株式会社の平成23年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する中間会計期間（平成23年4月1日から平成23年9月30日まで）の経営成績に関する有用な情報を表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

（注）上記は、中間監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

独立監査人の監査報告書

平成22年6月23日

ビー・エヌ・ピー・パリバ アセットマネジメント株式会社

取締役会 御中

あらた監査法人

指定社員 公認会計士 鶴田 光夫
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「委託会社等の経理状況」に掲げられているビー・エヌ・ピー・パリバ アセットマネジメント株式会社の平成21年4月1日から平成22年3月31日までの第12期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書及び株主資本等変動計算書について監査を行った。この財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。監査は、試査を基礎として行われ、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、ビー・エヌ・ピー・パリバ アセットマネジメント株式会社の平成22年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

追記情報

重要な後発事象に記載されているとおり、会社は平成22年5月12日にフォルティス・アセットマネジメント株式会社と吸収合併契約を締結している。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

() 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。